

夙川学院短期大学同窓会 会報

こしき岩会だより

令和4年9月





Contents

会長挨拶	3
総会報告	
・ 活動報告	4
・ 解散までの経緯について	5
・ こしき岩会残余財産の処分(案)	6
・ 会計報告	7
・ 2022決算及びご報告	8
閉会の挨拶	9
・ 総会・懇親会の様子	9
出席の先生方のメッセージ	11
懐かしの通学路	17
卒業生メッセージ	18
役員メッセージ	24
編集後記	27

こしき岩会を振り返って

大阪ヒルトンで最後となった「第25回総会・懇親会」を開催してから半年近い時間が経過致しました。

私自身、未だに「こしき岩会が解散した」実感を持っていません。

長年会長として携わってきました同窓会活動を振り返り、気持ちに区切りを付けたいと思います。

遡ること、40年余り前に恩師からの勧めで、同窓会の役員を引き受けたのが同窓会こしき岩会とご縁の始まりでした。

当時は3人の子育て真っただ中、夙川学院短期大学付属幼稚園児の保護者でもありましたので、母親学級のリーダーや自営業の手伝い、と一人何役も熟し日々まぐるしく過ごしていたのを思い出します。

目を閉じると、改めて当時の園長、先生方の顔が懐かしく浮かんできます。

当時の夙川学院は幼稚園から中学校、高等学校さらに短期大学（1965年に開学）を併せもつ兵庫県下でも有数の総合学校として築き上げていました。

短期大学への進学が隆盛の時代でもあり、あのこしき岩キャンパスには2,000人を超える学生数だったと記憶しています。

時代と共に夙川学院短期大学は発展し、1980（昭和55）年夙川学院創立100周年式典は華やかなものでした。

同窓会も短大の発展と共に会員数が増え賑やかな時代を迎えていました。

2007年には四年制大学の新設まで進み、神戸夙川



こしき岩会 会長
昭和46年家政卒

松伏 純子

学院大学が開学いたしました。

しかしその頃から学校経営の雲行きが怪しくなり、2010年の創立130周年を迎えた3年後、短期大学は神戸夙川学院大学のある神戸市ポートアイランドキャンパスへと移転しなければならなくなりました。卒業生の一人としても非常に残念で仕方ありませんでした。

短大で総会・懇親会を開催したのもこの時でした。学院から同窓会に寄付を求められ、総会で紛糾しながらも寄付することを決定いたしました。

同時にこしき岩会も甕石町から神園町の夙川学院中学・高等学校に一時移転し、その後ポートアイランドに同窓会室を移しました。

その間には、夙川学院に寄り添ってきたこしき岩会として何度か寄付し協力してきました。

然しながら理事長、学長の退任交代も何度かあり同窓会として不安が無かったとは言えない状況が長く続きました。

2014（平成26）年神戸夙川大学は募集停止、短期大学も英文学科、美術学科、家政学科と学科が次々廃止され児童教育学科だけという現状、これからの先行きに戸惑いを感じずにはいられませんでした。

2015年に短期大学は開学50周年を迎えましたが、手放しで喜べない、祝えない心境でした。

2019年には短期大学名が神戸教育短期大学と名称変更され、現在の神戸市長田区へと移転しました。

学院と共に歩む同窓会としては、またもや一緒に移転するしかない状態に西宮市甕石町時代を懐かしく思うと

同時に、総合学校として築き上げていた学院は短期大学だけとなり、総合学科として歩んでいた短期大学は児童教育学科だけの単科短大となりましたが、同窓会としては応援するしかありません。

長い歴史の中では予期せぬ出来事は幾度も起こるものだと感じます。

2020年より新型コロナウイルス感染症がまん延し始め、我々の生活様式が変わってしまいました。短期大学も学生への支援として様々な援助を考えられ、同窓会としても終身会費の未徴収という協力をしました。

その後、会費の徴収方法や同窓会活動について学長と話し合いの場を持ちましたが、こしき岩会の考え方と接点を見つけることが出来ませんでした。

同窓会として会費収入が無いことは活動制限があり、また、長年の懸案となっていた新規役員加入が無く役員高齢化に歯止めがかかりません。この思いを会員に伝え、アンケートを取り、意見も聞き、苦渋の決断として「こしき岩会解散」を役員会から提案しました。

3月27日第25回こしき岩会総会並びに懇親会を開催し、解散提案までに至る経緯を伝え、満場一致で解散決定の決議がなされました。

その時は肩の荷が下りたような安堵感がありました。が、今でも若手の会員が同窓会を引き続き活動してくれることを望んでいます。

でも、「解散」が決定したからには、綺麗に幕を閉じる事に最後まで頑張っていきたいと思っています。

名称が変更されても、夙川学院短期大学卒業生で繋がった絆は大切に引き継いでいきたいと思っています。

これまで同窓会活動に数々のご協力に対しお礼を申し上げ、最後のご挨拶とさせていただきます。本当に有難うございました。

これからも、夙川学院の末永いご発展をお祈り申し上げます。

活動報告

2018 (平成30)年度から 2021 (令和3)年度までの4年間

平成30年度

短大がポートアイランドから長田区へ移転、短大名を夙川学院短期大学から神戸教育短期大学に改称する年でした。それに伴って、こしき岩会も同窓会室の引っ越し、さらに第24回の「総会並び懇親会」開催、大学祭には子ども向けのゲームと初めてカレーの模擬店で出店しました。

通常業務の収支決算や予算の作成、卒業生への記念品、正会員のしおり作成、会長賞の授与準備、さらに役員改選と非常に行事の多い年度でした。

役員会開催

- 平成30年5月12日
- 平成30年7月4日・21日・29日
- 平成30年8月18日
- 平成30年9月22日
- 平成30年10月27日
- 平成30年11月25日
- 平成31年1月26日
- 平成31年3月9日

総会・懇親会開催

神戸オリエンタルホテル 7月29日(日)
会員131名、教職員10名、トータル141名の出席者でした。

文化祭(夙凜祭)参加

11月25日(日) 模擬店出店

令和元年度

短大が長田区に移転、夙川学院短期大学と神戸教育短期大学両方の短大名が正門に出され、新たにスター

トした年でした。こしき岩会も役員会を新たな部屋で活動をスタートいたしました。

主な活動は収支決算・予算作成、学友会からの要望もあり大学祭にはカレーの模擬店で参加、年度末には卒業生への記念品準備と正会員のしおりを作成、会長賞の授与準備と通常の業務をこなす1年でした。

役員会開催

- 令和元年6月8日
- 令和元年7月7日
- 令和元年8月4日
- 令和元年9月29日
- 令和元年11月16日
- 令和元年12月14日
- 令和2年1月18日
- 令和2年2月29日

令和2年度

皆様のご記憶も新しいコロナが発生し日常生活が脅かされ始めた年です。

4月から緊急事態宣言が発出され、学校は休校、デパートなどのお店も閉館となり外出がままならない状況でした。こしき岩会も活動停止を考えていた時に学長から寄付の依頼がありました。

一旦お断りの返答をした後、今までしていた同窓会費の代理徴収は今後しないという、思いもよらない連絡を受けました。同窓会の収入源が経たれてしまっただけで同窓会活動の継続は不可能になります。

通常業務である収支決算や予算の作成、卒業生への記念品、正会員のしおり作成、会長賞の授与準備、その他に、学長とメールで意見交換を何度もやりとりしながら、同窓会の方向性を検討する1年でした。

役員会開催

- 令和2年6月3日
- 令和2年7月18日
- 令和2年8月1日
- 令和2年9月5日
- 令和2年10月3日
- 令和2年11月7日・28日
- 令和3年3月13日

※役員会だけでは時間が無く、ラインでの役員会が続きました。

学長とメールでの意見交換16回、7月18日に学長と話し合いの場を持ち12月に会員の皆様に解散の提案文書を送る。

令和3年度

引き続きコロナがまん延状態で、ワクチン接種が開始されながらも緊急事態宣言は年始めから幾度となく発出されました。こしき岩会は緊急事態宣言の中、役員会を開催し通常業務をこなしながら、大きな課題である今後の同窓会の方向性について、会員からの意見を基に検討、決定を出しました。

その後は会員の皆様の決議を取るために、「第25回総会並びに懇親会」の準備を進めた1年間でした。

役員会開催

- 令和3年4月10日
- 令和3年6月26日
- 令和3年7月10日
- 令和3年8月21日
- 令和3年9月25日
- 令和3年11月6日
- 令和3年12月18日
- 令和4年1月15日
- 令和4年2月26日
- 令和4年3月19日

8月21日に学長の意思確認を目的に最後の話し合いの場を持ちました。

解散までの経緯について

解散までの経緯をご報告いたします。
こしき岩会の解散を提案させていただいた詳細につきましては、2020年12月に会員の皆さまへ郵送させていただきましたので、ここでは解散までの流れを説明させていただきます。

今まで、こしき岩会は短期大学の在學生、卒業生のため、そして学校法人夙川学院のために精一杯の活動をしてまいりました。毎年、学祭時はバザーや模擬店などを行ない、できる限り在學生に還元できるように協力し、また、卒業生には記念品の贈呈や会長賞の授与を行ってきました。

学校法人夙川学院には、四年制大学の設立時に3,000万円の寄付、そして短期大学が西宮キャンパスからボーアイキャンパスへ移転した際キャンパスの修繕費用として3,000万円を寄付いたしました。法人より寄付を求められれば母校の為、できる限り協力させていただきます。

今回このように解散に至った発端は2年前のコロナ禍で非常事態宣言発令のとき、学長より、「全學生に対し現金支給の寄付」を求められた事にさかのぼります。

当時、我々も役員会として集会することが大変難しく、ただ寄付については慎重に話し合いたい気持ちがありました。その理由として、同窓会費の収入は近年、学科の廃止、卒業生数の減少により減収の一途をたどっていました。学校法人に対し多額な寄付を2回いたしました。現在、四年制大学はなく、修繕したボーアイキャンパスも僅か4年間で長田区へ移転しました。その時点で、同窓会資産は3,000万円程になっていました。

役員会の開催ができない間に何度か寄付を求められましたがお断りを致しました。

その後、学長より届いた文書には、學生から徴収していた学友会費、後援会費は學生への支援として返金す

るため、学校として同窓会費だけを徴収することは學生に対し理解を得ることができない。同窓会費は、卒業時に任意で会費を徴収してほしいという内容でした。こしき岩会として、個々に会費を徴収することは現実には難しく、学校側が代理徴収していただけないのであれば今後の収入は見込めないと判断いたしました。

時代の流れもあり、同窓会の存在意義が変わりつつあります。総会、懇親会を開催しても若い卒業生の参加はごくわずかです。それだけ同窓会活動に対し関心が薄れているのと、今は同窓会に参加しなくても会いたい友だちには簡単に連絡が取れる時代になっているのも同窓会離れの理由の一つだと考えられます。

我々同窓会役員も高齢になり、現在の活動を継続することに負担を感じています。

これらの経緯と理由を文書にし、皆さまに解散の提案

を含め、今後の方向性についてアンケートいたしました。返信いただいた9割近くの方が賛成でした。アンケートの中には役員を引き受ける意志を示された方もおられました。実際に役員会に出席いただいた方はおひとり、現実的に同窓会活動を続ける難しさを理解していただきました。

この「解散」というアンケート結果について最後にも一度学長に真意を確認いたしました。我々の行っている同窓会活動は、学長が期待している活動に満たないとの厳しい見解でした。

役員一同、気持ちの糸が切れ、運営面、心理面、体力面において改めて限界を感じました。

今回、役員会として解散を決断しました。その決議を取る為、次にこしき岩会会則変更について説明させて頂きました。

こしき岩会会則変更の新旧対照表について

<変更事由>
同窓会こしき岩会が解散するにあたって、会則に解散に関する規程が付加されていないので新規制定する。
*役員会から解散を提案し、会員の皆さまからアンケート方式で意見を求めた方法とその後役員会で再討議した事で決議したことにより切り替えさせて頂きました。

*変更部分の新旧対照表

新 会 則	旧 会 則
(略)	現行の会則は第4章で終わっています。 第4章 会 計 (経 費) 第12条 本会の経費は、会費、寄付金、その他をもってこれに充てる。
第5章 解 散 (手続き) 第13条 本会の解散は役員会の発議により、総会において承認を得る必要がある。	(新設)
(残余財産の処分) 第14条 本会の解散時に有する残余財産は、役員会で処分案を作成し、総会において承認を得る。	
附則 1 この会則は昭和42年4月1日から施行する。 2 この会則は昭和56年4月1日から施行する。 3 この会則は昭和57年11月3日から施行する。 4 この会則は昭和61年7月13日から施行する。 5 この会則は平成15年4月1日から施行する。 6 この会則は平成25年4月1日から施行する。 7 この会則は平成26年1月18日から施行する。 8 この会則は平成26年7月6日から施行する。 9 この会則は平成31年4月1日から施行する。 10 この会則は令和4年3月27日から施行する。 解散が成立する共にこの会則の効力は失う。	附則 1 この会則は昭和42年4月1日から施行する。 2 この会則は昭和56年4月1日から施行する。 3 この会則は昭和57年11月3日から施行する。 4 この会則は昭和61年7月13日から施行する。 5 この会則は平成15年4月1日から施行する。 6 この会則は平成25年4月1日から施行する。 7 この会則は平成26年1月18日から施行する。 8 この会則は平成26年7月6日から施行する。 9 この会則は平成31年4月1日から施行する。

資料

こしき岩会の残余財産の処分

こしき岩会の資産として挙げられるのは、①会員の個人情報 ②所有している物品 ③終身会費があります。

解散となった今、こしき岩会の残余資産を下記の方法で処分します。

記

・会員の個人情報

こしき岩会が管理している会員の個人情報は、夙川学院 神戸教育短期大学に移管し、個人情報保護法に則り管理を委譲する。

・備品の処分

こしき岩会が所有している物品（備品や消耗品）については、夙川学院 神戸教育短期大学に寄贈する。但し、学校が不要であれば処分するものとします。

（備品） ・書棚 ・机 ・椅子 ・食器棚 ・冷蔵庫 ・シュレッダー
・電話機 ・金庫

（消耗品） ・ノートパソコン ・タブレット ・プリンター

・資産の処分

こしき岩会は会員から卒業年度に終身会費を徴収し、管理運営をしています。

2022（令和4）年3月現在の資産額 30,949,879 円

（3月末までの支出見込み額）

・2月末までの支出額 3,002,056 円

・3月度の支出見込み額 14,880,534 円

(A) 計 17,882,590 円

（4月以降の支出見込額）

・4月以降の役員交通費や会議費他の支出額 643,000 円

・臨時 会報誌の発行費 3,000,000 円

・神戸教育短期大学への寄付 5,000,000 円

・公的機関への寄付 最終残額円

(B) 計 13,067,289 円

(A) + (B) の合計金額 30,949,879 円

会計報告

2018 (平成30) 年度決算

収入の部 (単位：円)

収入の部	2018年度予算	2018年度決算
前年度より繰越	35,821,056	35,821,056
終身同窓会費	3,000,000	2,260,000
総会懇親会会費	300,000	371,120
夙凍祭商品売上金	20,000	23,160
預金利息	0	1,701
祝い金	0	30,000
その他(電話機修理代金)	0	22,032
合 計	39,141,056	38,529,069

支出の部 (単位：円)

支出の部	2018年度予算	2018年度決算
通信費	4,000,000	44,259
外注委託費	3,100,000	2,665,294
会議費	300,000	261,879
旅費・交通費	300,000	310,640
消耗品費	100,000	36,852
渉外費	50,000	10,000
手数料	10,000	8,610
卒業記念費	0	0
慶弔費	100,000	30,000
備品費	100,000	50,179
修繕費	0	13,932
総会・懇親会費	2,000,000	1,741,616
雑費(学祭費)	10,000	57,484
合 計	10,070,000	5,230,745

2019 (令和元) 年度決算

収入の部 (単位：円)

収入の部	2019年度予算	2019年度決算
前年度より繰越	33,298,324	33,298,324
終身同窓会費	2,440,000	2,320,000
総会懇親会費	0	0
夙凍祭出店売上金	20,000	24,900
預金利息	0	888
祝い金	0	0
その他	0	0
合 計	35,758,324	35,644,112

支出の部 (単位：円)

支出の部	2019年度予算	2019年度決算
通信費	50,000	18,196
外注委託費	500,000	126,632
会議費	300,000	332,528
旅費・交通費	380,000	257,690
消耗品費	100,000	19,249
渉外費	50,000	10,000
手数料	10,000	3,630
卒業記念品費	100,000	107,250
慶弔費	100,000	31,000
備品費	100,000	9,309
修繕・維持費	20,000	15,130
総会・懇親会費	0	0
雑費(学祭費)	100,000	44,441
合 計	1,810,000	975,055

2020 (令和2) 年度決算

収入の部 (単位：円)

収入の部	2020年度予算	2020年度決算
前年度より繰越	34,669,057	34,669,057
終身同窓会費	2,400,000	0
総会懇親会費	0	0
夙凍祭出店売上金	30,000	0
預金利息	0	849
祝い金	0	0
その他	0	0
合 計	37,099,057	34,669,906

支出の部 (単位：円)

支出の部	2020年度予算	2020年度決算
通信費	50,000	36,106
外注委託費	150,000	3,092,287
会議費	400,000	103,651
旅費・交通費	300,000	190,600
消耗品費	100,000	23,910
渉外費	50,000	10,000
手数料	10,000	4,040
卒業記念品費	500,000	262,042
慶弔費	100,000	31,000
備品費	100,000	0
修繕・維持費	20,000	0
総会・懇親会費	0	0
雑費(学祭費)	100,000	0
合 計	1,880,000	3,753,636

2021 (令和3) 年度決算

収入の部 (単位：円)

収入の部	2021年度予算	2021年度決算
前年度より繰越	30,916,270	30,916,270
終身同窓会費	0	0
総会懇親会費	0	0
夙凍祭出店売上金	0	0
預金利息	0	33,609
祝い金	0	0
その他	0	0
合 計	30,916,270	30,949,879

支出の部 (単位：円)

支出の部	2021年度予算	2021年度決算
通信費	50,000	42,587
外注委託費	5,500,000	4,967,745
会議費	400,000	348,338
旅費・交通費	300,000	236,640
消耗品費	100,000	26,162
渉外費	30,000	15,400
手数料	10,000	4,260
卒業記念品費	0	0
慶弔費	100,000	10,000
備品費	0	0
修繕・維持費	20,000	0
総会・懇親会費	6,000,000	11,058,548
雑費(学祭費)	0	0
合 計	12,510,000	16,709,680

※各年度 会計監査による確認と税理士による監査を受けています

2022（令和4）年度決算

（単位：円）

収入の部（前年度より繰越）	支出の部
14,240,199	9,740,000

こしき岩会だより発行時に於いて残余財産は上表に示しました通りです。

支出の部の細目につきましては、こしき岩会だより最終号発行に伴う諸経費、神戸教育短期大学への寄付金、同窓会備品の処分費等を含んでいます。それらを差し引き、最終残金となる約450万円につきましては、総会時に了承頂きましたように公的機関へ寄附を致します。

会員の皆さまにはご理解を頂きます様お願いいたします。

ご報告

残余財産の処分について

1. 会員の個人情報について

こしき岩会が管理、運用してきました会員の個人情報を神戸教育短期大学に移管し、管理を委譲することを総会時にご報告させて頂きました。然しながら、大学側よりそれを「辞退」したいと申し出がありました。会員名簿管理について事前に大学側と話し合いの場を持たずにいたことは事実です。それは役員会として全く想像していなかった返答で、そのまま受け入れて下さることを信じていた為、その様な機会を設けませんでした。

我々は大変驚き、困惑しましたが、「辞退」のその真意を伺いました。

理由としては、①金銭的な問題 ②個人情報管理が無理 の二点です。

様々な卒業生への告知はホームページを通じ個人情報の入力をして頂くことによりデータを掴むことが出来るので不要である。個人情報の保管管理には大変な重責を担うので辞退したい。とのお話でした。

役員会としてこの考えを深く受け止め、委託管理会社に相談し、適切に処分を致します。

会員の皆さまには、どうぞご理解のほどよろしくお願い致します。

2. 神戸教育短期大学への寄付金（500万円）について

大学側より希望する備品の申し出がありました。

① グランドピアノ

② 体育館及び図工室のカーテン取り換え工事代金

の2件で、どちらも「同窓会 こしき岩会寄贈」と銘板の設置がされます。

今回の紙面では写真を掲載出来ない為、納入、施工されましたらホームページにてお披露目します。

閉会の挨拶

42年卒業1期生 藤岡利子

42年卒業1期生の藤岡利子でございます。

本日は、コロナ禍にも拘わらず多数の皆様にご出席いただき、有難うございます。「こしき岩会」は私たち1期生の卒業時に、学校側から同窓会発足の要請があり、昭和42年度から同窓会「こしき岩会」として活動が始まりました。

そして、こしき岩会は、会員相互の親睦を図り絆を深め、母校の繁栄を願い寄与することを目的に歩んで参りました。しかし、今日までの長きの間には様々な出来事や問題に遭遇しましたが、その様な中でも活動を続けて参りました。

しかしながら、こしき岩会活動の幕を閉じるという決断に至りましたことは、非常に無念で堪りません。卒業生の皆様以上に悲しく残念な思いです。

しかし、今回を以て最後の総会・懇親会となりました「第25回こしき岩会総会並びに懇親会」を無事に開催出来ましたことは、ご出席いただきました皆様のお陰でございます。

お世話になった先生方そして、懐かしい卒業生の皆様とヒルトン大阪の華やかな雰囲気の中で楽しいひとときを共有出来ましたことを、大変嬉しく存じます。

現在、夙川学院短期大学という名称の短期大学は存在しませんが、私たち卒業生の心の中で生き続けることだと信じています。

今、夙川堤の桜も開花し始めました。桜の季節が巡って参りましたら、夙川堤の桜を思い出すと同時に夙川学院短期大学での学生生活の日々を懐かしんで頂ければ幸いです。

有難うございます。

令和4年3月27日(日)

総会・懇親会の様子

総会・懇親会プログラム

- 10:30 受付開始
- 11:00 総会
 - 会長挨拶
 - 活動報告
 - 会計報告
 - 解散経緯について
 - 会則変更について
 - 残余財産の処分(案)について
- 12:00 懇親会

受付



報告



懇親会



恒例！
ビンゴゲーム



第25回 こしき岩会 総会・懇親会



参加して下さった教職員の先生方

- | | | | | | | | | | | |
|------|-------|------|-------|-------------|------|------|-------------|-------------|-------------|-----|
| 井土雅美 | 足立一予 | 久馬光雄 | 和久宗利 | 菊川和彦 | 藤木隆義 | 山下昇 | 前学長
岡崎公典 | 現学長
三木麻子 | 理事長
岡本成美 | 増谷昇 |
| | 福井裕子 | 久本信子 | M・ボナー | 高見美智子 | | | | | | |
| 片山雅男 | 長谷川方子 | 池田啓子 | 金築優子 | 元学長
吉岡 濟 | 中下公陽 | 山本昌子 | 大江米次郎 | 小林伸雄 | (敬称略) | |

出席の先生方のメッセージ

ご出席の旧教職員の先生方にご依頼しテーマを「夙川学院短期大学の思い出」としメッセージを頂きました。お忙しい中懇親会にご出席頂き、更に原稿依頼をお受け頂き厚くお礼申し上げます。

四季折々のなかで

旧教職員 池田啓子

3月末の「こしき岩会・親睦会」の開催からはや二月近くが過ぎ、桜の季節から緑の美しい新緑の季節に移り変わりました。夙川の桜も随分ご無沙汰で、時折懐かしく思い出しています。

今回の開催では久しぶりの教職員の方々、卒業生たちに出会い楽しいひとときを過ごすことができました。特に卒業生との再会では、絵画以外の他コースの人との出会いもあり喜ばしい出来事でした。

美術学科での思い出は、季節ごとの行事かもしれません。夙川の夜桜での花見、一泊の新入生歓迎会、夏のアートツアー、12月の校庭を彩った光のメタファー展とパンピングスーパ、進級・卒業制作展などと思っております。特に学生たちの卒業制作に行き詰まって涙ぐんだり、笑ったり、ドキドキした日々が思い出されます。そしてそれらの行事を彩ったのは、短大からの美しい景色のような気がします。

今でも四季の移り変わりのなかで、正門からピロティまでの淡いピンク色の桜、かぶと山の新緑、満開の紅色のつつじ、紅葉、そして卒業制作などで遅くなったとき、木々の間から見える濃紺の夜空、眼下に見える各戸の明かりなど、今も一枚の絵葉書のように心に残っています。不思議と人は楽しい思い出だけを選択しながら、日々

を過ごしていくのかもしれないと最近思っています。卒業生の皆さんも楽しい思い出を見つけてください。

夙川短大に就職した頃の思い出

旧教職員 大江米次郎

昭和49年4月から平成3年3月まで児童教育学科でお世話になり、担当科目は教育心理学でした。第25回こしき岩会・懇親会に参加させていただきありがとうございました。当日は、その頃に在籍された卒業生の方々と一緒に歓談できたことが大変楽しかったです。話していると当時の頃を懐かしく思い出していました。

私は、今は後期高齢者になりましたが、その頃は30才前後で、女子の大学進学率が高まりつつある時代でした。在学生の皆さんと年齢も近く、授業では、心ワクワク・ドキドキしていました。401号室の大教室での授業では、壇上をマイク片手に動き回り板書していた光景が浮かんできます。話した冗談が上手く通じて、皆さんから一斉に笑ってもらえた時の声を懐かしく思い出せます。その授業日は、弁当も美味しく食べ、大学から甲陽園駅までの坂道を軽快に下っていました。翌日の授業日も上り坂は楽しく短く感じたものです。心身のエネルギーがありましたね。また、授業での質問で、研究室にも来てもらえることを楽しみにしていました。

そうそう、その頃は卒業旅行が海外旅行になっていましたね。一度添乗させてもらう機会があり、初めてパリに行ったことを思い出します。エッフェル塔に登りました。その頃は洋画ファンでしたので、映画に出てくる風景と重ね合わせ感激でした。こうして書いてみると記憶は断片的ですが、楽しいことを思い出せることで生きる喜びに通じるものがありますね。

当日懇親会に来られなかった先生方のことも懐かしく蘇ります。

末筆になりますが、皆様方のご健勝をお祈りしております。ありがとうございました。

「こしき岩会」を懐かしむ

旧教職員 奥戸一郎

病窓に 八幡山崎 鯉躍る 志門

始めて二期生の学生さんの講座を持ってから早半世紀、想い出は盡きません。福永先生、緒方先生の手前、何んとか授業中学生さんの視線を集めようと、羽織袴で登学を決心。自宅の枚方から西宮北口、スクールバスと、まるで地球外生物を視る様な視線に、心は折れましたが初心貫徹。雨には高下駄に蛇の目傘、雪には道中合羽と小生は楽しみました。連れ合いにしっかりと叱言をくらっていました。始めて出会った二期生の学生さんは、関係先の仕事を始め、結婚、出産を経て、現在もお目にかかれる幸せを有難く思います。五十歳で輸出輸入の仕事にキリを付けて、滋賀の大学で人間福祉の学科を担当できたのも、夙川学院の非常勤から始めて、帝塚山女学院、母校の京都工芸繊維大学と続けられた講座が、文科省に認められたお蔭と「こしき岩」には足を向けられません。最初で最後の一世一代の個展も学生さんの御父上のギャラリイを拝借。七七日で試みた日本の伝統工芸(染織、漆芸、陶芸、人形、書への挑戦)も、幸い卒業生の皆さんで活気づき賑わいましたし、年に一度の舞台(能)にも、毎回多忙の中誘い合わせて来て頂いております。二十年務めました企業の年に一度の同窓会にも近年迄元気なお婆ちゃんとしての明るいお顔を拝見できる幸せを感じ続けました。「こしき岩会」は芽出度「ゴール」となりますが、学生さん始めお世話頂いた皆様のご苦勞に感謝と伴に、これからの御多幸を切に念じる事が八十五才の翁の朝夕の務めとなれば、何よりの喜びです。

こしき岩の卯の花腐し今もなほ 志門

『卒業アルバム』の笑顔

旧教職員 岡崎 公典

卒業生の皆様のお手元には、夙川学院短期大学在学中の思い出が詰まった『卒業アルバム』があることでしょう。

私は、平成11年4月から平成31年3月までの20年間、児童教育学科の教員として勤務しました。勤め始めて三年目の春、クラスアドバイザーをはじめ担当することになりました。四月当初、全学生対象のオリエンテーションに続き、各学科のオリエンテーション、そして「クラス別オリエンテーション」。私の受け持つクラスのメンバーとの初めての〈出会い〉でした。そして二年の時がながれ、短大での時間を共にした卒業生を送り出し、新たな年度を迎えてしばらくしたころ、思い出の詰まった『卒業アルバム』が完成し、卒業生の手元に届きました。同じころ、学科内回覧の形で、同じアルバムが私の手元にも回ってきました。そのなかには、入学式から卒業式までの二年間の大学の行事や活動の写真、授業風景などとともに、クラスごとの「集合写真」と学生ひとり一人の「個人写真」が載っていました。写っている学生さんの表情は、みんな「笑顔」です。アルバムには、学生さんの短大生活をささえた私たち教職員ひとり一人の写真もありました。この一冊のアルバムには、同じ年に入学した学生さんひとり一人の短大生活が凝縮されているとあらためてしみじみ感じたのです。早速、アルバムが私費で購入できないか交渉しました。それ以来、毎年「卒業アルバム」を私費で購入してきました。短大のキャンパスは、西宮こしき岩から神戸ポートアイランドへと移りました。アルバムの中にはその時々の風景が映し出されています。こしき岩とポーアイの両方の風景の年もあります。でも、どのアルバムもひとり一人の「笑顔」がとても素敵なのです。

アルバムの中の「笑顔」は、いつまでも変わらないでしょう。夙川短大での多くの〈出会い〉に感謝して

います。アルバムの「笑顔」を眺めながら、卒業生の皆様のお幸せを心よりお祈りしています。

旧教職員 金築 優子

私が夙川学院短期大学に就任したのは昭和46年、大学を卒業してすぐの年でした。

校舎は一棟のみの簡素な大学でした。

研究室は4階、窓からは大阪平野が一望でき、大阪城まで見渡すことができました。

体育館もなく玄関先で出席を取り、玄関に入ったすぐのロッカールームに卓球台を並べ、狭いところで卓球をしていました。

こしき岩寮までの小さなグラウンドでバレー、バスケット、鉄棒、ゴルフ…と体育の授業をしていたのが最初の頃の思い出です。

やがてリズムの授業を持つようになり、一号館2階事務室横の狭いスペースで授業を実施していました。

体育館ができ、リズム室ができ、やっと個室で授業らしい授業ができたのを覚えています。

それが12号館まで建ち、学院は次々と発展していきましました。

授業で忘れられないのは何といてもオペレッタです。指導者になったとき、「これだけのことをしておけば劇を指導する際に簡素化したり、劇の構成などがたやすくできるであろう」と思い、物語を最初から作り、作詞 作曲 演出 振り付け 構成など、すべて自分のオリジナルの作品を作らせました。

「先生、タベ見たお月様が今朝もまだ出ていた」と笑って言ってくれるぐらい夜遅くまで練習し、朝早く集まってみんなが作品を仕上げているてくれました。

いつも休み時間になれば、どこからともなく歌声が聞こえたものです。

最近ではアルバイトが大切な生活時間の一部となり、みんなが放課後集まって練習することが困難になって

きました。

これは時の流れとともに仕方のない世の中の現象となり、既成のオペレッタや劇あそびなどを演じるのみになってしまうました。

時の流れを感じるとともに、オペレッタは私の忘れられない思い出です。

夙川学院短期大学…こしき岩寮の思い出

旧教職員 菊川 和彦

私は平成元年に「英語英文学科」の英語担当の専任教員として採用され、23年間勤務し、59歳で退職した。途中で所属学科は「人間コミュニケーション学科」と名称を変更し、その学科が募集停止をしたあとは「家政学科」に所属した。提携していた米国、カリフォルニア州の「ピッツァ・カレッジ」との留学関係の仕事やアメリカ短期留学の学生を引率した仕事などが思い出に残っている。

在職中に学生支援部長という役職を2年間勤めたことは、さらに大きな思い出である。学生支援部長は学内の諸行事や学生生活の責任者であったが、敷地内にあった女子寮（こしき岩寮）の責任者でもあった。ある時「寮に幽霊が出る。」という苦情が来た。噂が噂をよんで数名の学生が幽霊（のようなもの）を見たという。そこで関係する教職員と相談の結果「悪霊退散（除霊？）のお祓い（おはらい）を越木岩神社に依頼する」という極めて非科学的な解決策を試すことになった。

私は幽霊の存在など信じていなかったが、安定的寮生活を回復させるため、この方法にはそれなりの効果があるだろうと判断した。お祓いの当日、寮生80名近く（人数の記憶が曖昧）と寮監、学生課の職員、学生支援部の教員が「こしき岩寮」1階ロビーに集まり、越木岩神社の宮司（ぐうじ）によるお祓いを受けた。その後「幽霊を見た。」という苦情が出なかつたので効果があつたのであろう。悪霊は「こしき岩寮」の敷地からは退散

したようである。悪霊は消滅したのか？ それとも他の場所へ移動しただけなのであろうか？

『夙里夢』

旧教職員 久馬光雄

「こしき岩会だより」の最終号。夙川学院短期大学の絆が…。

昭和五十三年四月に新卒で事務職員として採用され、平成二十年三月に早期退職するまでの三十年間を振り返っても、今は喪失感しかありません。西宮市の学舎は解体され、あの佇まいは完全に消え去ってしまいました。卒業生の皆様、夙川学院短期大学を護ってあげられなくて本当に申し訳ありません。増谷勲先生、増谷豊先生そして永井末男先生、この体たらくをお許しください。

平成十九年四月に神戸夙川学院大学が開学しました。その後、神戸夙川学院大学は神戸山手大学に移管され、現在は神戸山手大学も関西国際大学に統合されてしまいました。また、夙川学院短期大学は平成三十一年に神戸教育短期大学に名称が変わりました。

しかし、神戸教育短期大学には創立百四十年をこえる夙川学院の遺伝子が受け継がれています。

因みに、タイトルの『夙里夢』は、夙川学院短期大学の同窓会(里)が描く夢を表現した造語です。現時点で、どのような夢を描けるかは分かりません。それでも、夙川学院の遺伝子が受け継がれている限り、夙川学院短期大学の復活も夢ではありません。

これからは夙川学院短期大学の卒業生としての自覚と誇りをもって大切な人生を歩んでください。そんな夙女の淑女たちを応援しています。

最後になりましたが、これまで「こしき岩会」を運営されてきた歴代の役員の皆様に感謝申し上げます。本当に長い間、お疲れ様でした。

今宵は、あの懐かしい味をお届けします。甲陽園のツマガリさんのシユーク・リー・ム(夙・里・夢)です。

夙川学院短期大学の思い出

旧教職員 小林伸雄

2022年3月27日(日)に開催された「第25回こしき岩会・懇親会」に参加させていただきました。こしき岩会の解散・活動停止に伴う最後の総会・懇親会となりましたが、400名もの参加者があったことは、卒業生の皆さんや教職員の夙川学院短期大学への思いの大ききそのものであるような気がします。このような思いの受け皿となり、総会・懇親会などすべてのこしき岩会の運営に携わってこられた松伏会長をはじめこしき岩会役員の皆様、本当にご苦労様でした。これまでの地道な活動に敬意を表するとともに心より感謝いたします。ありがとうございました。

さて、私も昨年度末に非常勤講師を含めた定年を迎え、夙川学院短期大学を完全に卒業いたしました。こしき岩会と同時に学校を去ることができたのも何かのご縁では？とちょっと感慨深く感じています。振り返れば40年以上の長きにわたり夙短に在職し、たくさんの卒業生の皆さんと関わらせていただきました。そして、その間に二度の学校移転と校名変更を経験するという、まさに激動の学校史を生きてきたと言えるでしょう。

「こしき岩会」の名称の起源である西宮市観岩町の学校跡は今も空き地のまま荒れ放題、側を通るたび未だに心が痛みます。ポートアイランドの校舎はそのままの姿をとどめていますが、神戸学院大学が使用しているそうです。現在は、校名を「神戸教育短期大学」と改め、長田区に場所を移しています。

在職中にこれだけの変遷を経験するのも珍しいことだと思えますが、短期間のうちに引越し荷物の選別や荷造りをし、到着した荷物を整理・配置し、4月からの授業に間に合わせるという大仕事をしたのはずいぶん、今となってはどのようにそれをしたのか何一つ思い出せません。二度も経験したはずなのに、やはり嫌な記憶は速やかに忘却するようになっています。

そんな激動の中、いつも変わらずに授業への情熱を維持させてくれたのはその時々のお学生さん(すなわちこしき岩会員のみなさん)です。他の幾つかの大学等でも非常勤講師の経験がありますが、夙短生はこの学生より素直で人懐っこく、明るい印象があります。学びに関しても伸び代があり、素地の良さを感じさせてくれました。荒波を乗り越えることができたのもそんな学生さんたちがいてくれたからこそだと思います。

懇親会では多くの卒業生たちが声をかけてくれました。定期的に同窓会を開いてくれるクラスや、小さな集まりでも繋がりを持っていてくれるグループもあります。これを機会にまた集まろうね、などというお話もそこかしこであつたようです。こしき岩会の解散により、夙短全体の集まりはなくなるかもしれませんが、そのことによつて夙短の卒業生であることが変わる訳ではありません。夙短への思いが色褪せることもありません。むしろこれをきっかけに小さな単位ではより結びつきが強くなるのではないのでしょうか？私の引越し記憶同様、最後にはいい思い出だけが残ります。夙川学院短期大学卒業生としての誇りを持って、夙短への思いを大切にしていきたいと思えます。

人生いろいろ

旧教職員 中下公陽

卒業生の皆さんお元気でお過ごしでしょうか

思えば五十三年前、初めて夙川学院短期大学の門をくぐりました。科目は社会福祉、児童福祉、同和教育、地域福祉、等を担当しました。保育科から幼児教育学科、児童教育学科になり初等教育が入り小学校教諭免許と幼稚園教諭免許となり、保育、養護教諭免許がなくなりました。本学初めての卒業海外旅行グラム行が決まり添乗しました。昭和49年3月卒業の皆さんです。教務課、学生課、教育実習課、特に学生課の時には交通事故防止のため通学路を変更することにしました。この

時期にご尽力頂いた柴田一史先生には改めてお礼申し上げます。又、教育実習課の時には指定実習園を創出し、34ヶ園のご協力を頂き、実習から就職への流れを創りました。クラブ活動では茶華道部滴翠会、師範には家政学科喜多富久子先生のご母堂、喜多昇甫、中和未生流宗家に依頼しました。学祭には滝の元での茶会、ポランティアこうよう、きつつき会等の焼きそば等々全学挙げてのお祭りでした。学友会、クラブ等との小さな旅行、浜甲子園の徳網氏宅の学童保育、学友会の他大との交流等、当時学生数は2,000人余りでしたので楽しい教員生活を送らせて頂きました。この間、小生も18校に出講しました。又、54年間、日本空手道公龍会を主幹し自宅道場に40人ほどの門下生が集い段位は8段になります。現在の生きがいの課題は如何に老後をたのしく過ごすか、です。浄土真宗本願寺派の明光寺、正蓮寺、地藏院住職、布教使として共に生きることが使命と思っています。今後はボランティア明光寺をお世話していきながら共に、相互介護、駆け込み寺的な、田舎の寺で老後を楽しみたいと思います、相談してください。

終わりに昭和44年から平成9年まで長きにわたりご指導いただきました諸師並びに諸姉には篤くお礼申し上げます。ありがとうございます。

旧教職員(医務室) **長谷川方子**

私が夙川学院短期大学に赴任した時は、学生数が二十人くらいの多い時代でした。

心身の症状を抱え来室される方の対応に追われる多忙な日々でした。病院への搬送、時には救急車のお世話になることもありました。いろいろな事が起きた後は、来室者の苦しみ、痛み、悩みをしっかりと受け止め、共有する事が出来たのかと反省する事ばかりでした。時には自身の体調を崩すこともありました。辞めたいと思うこともありましたが、でも、周りの方々の支え

があつて続ける事が出来ました。感謝の一言です。そして、快方に向う来室者の様子は何よりの励ましになりました。笑顔で報告を受けた時は喜びと感動で胸がいっぱいになりました。

そんな中で、私の楽しみは他にもありました。それは、駐車場から医務室へ向う途中の四季折々の花木を観ることでした。春は満開の桜の下、真っ白に咲き乱れるユキヤナギ、土手の傾斜面に咲く濃いピンクの山ツツジ、めずらしい白の三つ葉ツツジなど。何より心を和ませてくれました。秋には美しい紅葉の中、ドングリを食べに来るイノシシの親子に出会った事もありました。美しい自然の中に在った夙川学院短期大学。阪神大震災にもびくともしなかつたこしき岩。

その強い礎の元を卒業された、こしき岩同窓生の絆も強いものと信じております。
同窓会「こしき岩会」が閉じて、こしき岩キャンパスの思い出は永遠のものです。

令和今昔ものがたり

旧教職員(児童教育学科所属) **久本信子(旧姓：泊里)**

今は昔のはなし。私は22歳(1975年4月)で教員としてスタート、そして短大が甕岩からポートアイランドへ移転する2012年3月に退職しました。良い事、悪い事含めいろいろな記憶が、走馬燈のように止めど無く駆けぬけていきます。ここでは、心がほっこりして印象に残るエピソードを2つお話しします。

エピソード1

私が赴任した1975年当時、短大は1、2号館(体育館)、美術棟(プレハブ棟)、テニスコート1面のみです。その体育館は、バレーボールコート2面を何とか取ることができた広さでした。一方、体育科目は沢山あり、狭い体育館に4クラスの学生さんが同時に入るとキューキュー詰めでした。そのため、天気の良い日には、クラ

ス全員で北山ダムまで30分かけて山登り。緑豊かな頂上の広場で体操や鬼遊びなど、しっかりと身体を動かした後、山を下りて体育館へ。これを1日3ないし4コマ繰り返しました。1日が終わる頃には、もうクタクタヨレヨレ。でも、楽しい時間でもありました。「若くエネルギーが尽きたからできた」と我ながら懐かしく思い出します。

エピソード2

1989年から1993年頃、第2次ベビーブームで生まれた人達が大学入試に臨んでいました。夙川学院短期大学を受験する学生さんも多く、一般教室だけではなく、体育館さらには高校の体育館までも入試会場となりました。広い体育館の中を「ザッザッ」と拡がる机の列「忘れることができません。教職員は溢れかえる受験生の対応に追われながら、驚きに満ちたうれしい悲鳴をあげていました。

37年間の教員生活。多くの学生さんと出会い、この出会いが私を育ててくれました。二人三脚ならぬ多人多脚の歩み。卒業生の皆さん、本当にありがとうございます！

美しき学び舎を偲んで

旧教職員 **福井裕子**

私には幾つかのささやかなこだわりがある。ふだんは意識していないが、日々の中で出会う人、モノ、光景や出来事がしつくりきた時、心底私が求めていたものはこれだと確信する。それらが積み重なりこだわりとなるのだろう。

二五年前の早春、初めて夙川短大を訪ねた日のことははっきり覚えてる。夙短は、私の密かなこだわり学校は美しくあるべきーを完璧なまでに満たしていた。スロープを上りきった先の管理棟から一望できる大阪湾は、午後の陽射しを受けて煌めいていた。甕岩丘陵

を取り巻いて建てられた校舎群は冬日の中に冷たく静かに佇んでいた。図書館の入口には現代美術の彫像が鎮座し、美術科のある棟の階段や廊下には受賞作の油彩画が幾つも掛けられていた。

非常勤講師として週3日勤務するようになって、春夏秋冬の移ろいに夙短が見せる美しさに私はますます圧倒された。

春、阪急の単線の電車は甲陽園駅まで花の廻廊を車窓に映してのどかに川沿いを走る。通学路の坂を上り校門に着くと、桜並木が迎えてくれる。五月、新緑と深紅の山ツツジが見せるコントラストは鮮やかだ。夏は大阪湾から吹き渡る風に紫陽花が揺れる。後期の夙短祭には、赤い毛氈の抹茶席で振り袖姿の茶道部員がお点前を披露して、正面玄関あたりは典雅な雰囲気に含まれる。秋深まり、五限の授業が終わる時間帯には、西日の残照に赤く燃えた校舎の白壁が急ぎ足で濃い闇に沈んでいった。冬至祭には、光のオブジェが外階段に幻想的な影絵を落とし、異界に迷い込んだみたいで毎年心愉しかった。

それらはすべて時の彼方に消えて、今はその記憶だけが鮮烈に残る。あの時あの場にいた関係者の皆様の温かさに、確かに私は守られていたから、夙短の美しさを無心に享受できたことを遅まきながら嘖みしめている。

「臨時こしき岩会だより最終号」に寄せて

旧教職員 藤木 隆義

令和4年3月27日(日)、ヒルトン大阪で開催された「第25回 こしき岩会 総会並びに懇親会」は一生の思い出になりました。会長をはじめ、役員の方々にはこれまでのご苦勞に対して厚く御礼申し上げます。

夙川学院短期大学を去って30年以上も時が経っていたので、案内を頂いたときは出席すべきか否か迷いましたが、「こしき岩会」の最後の集いとなると聞き、無性に

恋しくなり出席を決意しました。しかし、会場で大前都貴子さんの顔を見るまでは不安で仕方がありませんでした。顔見知りの人は誰もいなかったからです。そのうち、山下先生に出会い、懐かしいボナー先生とも言葉を交わすことができました。そんな中、一番嬉しかったのは、ゼミの教え子たちが集まってきてくれて、私のシエイクスピアの講義などを懐かしく語ってくれたことです。どんな講義をしたのだろうと不安に思いつつ、ついその昔話に聞き入ってしまいました。

英文科で過ごした頃の思い出を少し話したいと思えます。まずは先生方とのことですが、今なお現役で学会に貢献され、活躍されている方々、また、故人も含まれます。私自身の永遠の思い出の中の方々として名前を挙げさせて頂くこと、そして、駄文を何卒お許しください。

私が夙川学院短期大学の英文科に就任したのは昭和50年4月、それから13年務めました。その間、学科長を務められた今井先生、合田先生、小林先生の下で学生の指導にあたりました。就任当初の頃の思い出としては、淡路島へ英文科の学生を引率し、施設のプールで学生たちを肩車に乗せて騎馬戦をやりました。水泳の上手なフランス語の浜田先生の提案でした。学生たちは普段見せない笑顔でゲームに興じていた様子を今でも思い出します。

英文科の学生さんたちはその頃は皆優秀でした。短大の全盛期だったかと思えます。就職も大手の会社にごんごん決まっていきました。その頃、特に就活できめ細かい指導をなされておられたのが伊藤田先生です。またその頃は優秀な若手の先生方が多く英文科に入られ、学生の英語指導に力を入られました。全学生を大教室に集めて一斉テストを実施しました。今でもTOEICのテストなどが国公立私学を問わず実施されており、今思えば既に昔もやっていたということですね。

アカデミックな分野では論集を毎年発行して研鑽を積み重ねました。その頃、語学では中井先生、神崎先生が中心になって活躍され、アメリカ文学では山下先生、イギリス文学では吉村先生、カナダ文学では南先

生が積極的に投稿されていました。私もチヨースーの小論を寄稿し、シンポジウムではシエイクスピアや『怪談』で有名なラフカディオ・ハーンについて話したことを覚えていています。

学生諸君との思い出も尽きません。海外語学研修ではアメリカのサンタクルーズ校に引率したこと、大学の卒業旅行ではヨーロッパを訪れたことなどが思い出されます。ゼミ旅行も思い出の一つです。花岡先生とは長野県に合同ゼミで行きました。先生は、フォークナー研究で知られる恩師小野先生からフォークナーの研究書3冊の評論を書けとの難題を抱え、車中で一生懸命原書を読まれておられたのが一番印象に残っています。単独のゼミとしては小豆島に行つたことを思い出します。

比較的最近の出来事としては、私が夙短に就任して間もない頃、台湾からの留学生がいました。瑛ちゃんという名前です。英語は流ちょうなのですが、日本語がまだ片言だったので、彼女をサポートする仲間ができ、今なお交流している人たちと久方ぶりに大阪で再会することができたのも生涯の思い出です。

断片的な思い出の羅列になってしまい恐縮です。今後は、短大時代の教え子たちにもまた会える日を老後の楽しみにしたいと思えます。最後に、思い出の詰まった夙短時代を想起する機会を与えて下さった「こしき岩会」に心より感謝いたします。

旧教職員 Martin Bonar

短大の思い出は、日本での最初の25年間と重なっていて、別々に考えるのは難しい。最初は新しい文化に出会う嬉しさとその裏面の誤解、苛立ちがあり、教育目的に関しての食い違いもあった。(当時、日本の大学の殆どの外国人とは異なり、私は経験と資格を持った外国語教師だった)。後程、結婚して、家族を始めた後、毎年ビザ更新の不安があった。雇い主の虜になった気持ちが多少あった。

覚えてるのは: Spoken American English という教科書: Have you ever been to Hagi? ドリルと繰り返し。事務局にある巨大な和文タイプライター。大声で英語の文章を楽しく繰り返し返してくれる40人の若い女性のクラス。夙川からの寿司詰め電車。武庫之荘からの自転車通勤。現金のボーナスを貰い、畳の上に札を一枚ずつ敷いた事。大きなミスをした時の事務局長のサポート。語学ラボを購入してくれて、留学クラスを開始した経営陣の支援。仁川でのESSピクニック。文化の日のESSパフォーマンスの監督と執筆。水曜日の午後、英語英文学科の同僚とのテニス。ビヨルン・ポルグと呼ばれた事。髪がゆっくりと消えるのを見ていた事。謝恩会でギターを超下手に弾いた事。組合委員長を(形だけ)務めた事。寒い体育館で理事長の古臭い挨拶の拝聴。自身の教科書を書き、使うように皆を説得した事。大震災後、突風に荒らされた麦畑の姿をした図書館の倒れていた本棚。

覚えていないのは学生である。とても恥ずかしいが、大部分の学生の名前と顔は頭に残っていない。長年、夙川を辞めてから、クラス名簿を保持したが、皆どんな人生を送っているか永遠に知らないだろうと痛感して、ついに捨てた。毎回見た時、悲しくなり過ぎた。許して。

夙川短大時代の思い出

旧教職員 山下昇

夙川短大には3年間勤務しただけなので、学生さんの在籍期間とあまり変わらないことになりました。それでも私には色んな意味で忘れがたい時代です。まず私の初めての就職先だったことです。指導教授の紹介で勤めることになったのですが、まだ26歳でした。学生はもちろん、同僚や先生方も若い人が多く、大学院の延長のようでした。教えることについても自由で、楽しく授業をしました。ただ労働・研究条件が悪く、こ

れではとてもやっていけないと思い、大学院へ戻ることも考えました。

その頃に労働組合が結成されました。長年我慢してきた先輩たちが組合を結成して立ち上がったのです。組合について全く何も知らなかったのですが、執行委員になり、要求書や団体交渉など組合運動のイロハを教えてもらいました。その成果として給料アップ、研究条件の改善がなされ、大学らしくなってきたので、頑張ろうと思うようになった矢先に、指導教授から他大学へ移るよう言われ、慌ただしく夙川短大を去ることになってしまいました。そのことはとても残念でした。

その後、2つの大学で勤務しました。どこでも学生や教職員と親しくつきあい、楽しく働きました。しかし夙川短大の3年間は特別です。この時教えた学生の中にはいまでも年賀状の交換が続いており、連絡を取り合っている人もいます。先生方のなかにもいまでもお付き合いしていただいている方がいます。また夙川短大で学んだ組合運動は、次の職場でも3校目となる職場でも活きました。2大学でも書記長や委員長をして、労働条件の改善のために努力しました。68歳の定年まで3つの職場で42年勤務しましたが、私が働き続けたのは夙川短大でのこれらの経験のおかげです。そのこしき岩会がなくなってしまうことは残念ですが、そこで過ごした日々の思い出は消えません。有志の集まりがあればまたお誘いください。皆様お元気で。

夙川学院短期大学の思い出

旧教職員 山本昌子

夙川学院短期大学。懐かしい響きです。

私は昭和四十年四月、家政学科の一〇二名によって開学した年の十月から定年まで、三十九年六ヶ月勤務。まさに青春時代を含め、人生の多くの年月を夙川学院で過しました。その間大勢の学生や教職員との出会い

があり、今の私の生活に繋がっています。

今回この記事を書くにあたって久しぶりに夙川時代のアルバムを取り出してみた。一枚一枚、懐かしい思い出が甦ってきた。私も若かりし頃は、黒髪フサフサ、小柄ながらも普通サイズの時もあったのだ。学生との交流は何といっても洋裁実習。提出日に間に合わず為に「厳しい」「こわい」と云われながらも、歴代の助手の方々に助けて頂き、叱咤激励した日々。学生達もそれに耐えて一枚の卒業証書を手にした卒業式。数年後、良縁を得た何人もの結婚式におよばれた。中には自作のウェディングドレスを披露した人の久しぶりの作品を見て、感無量の思いであった。学外オリエンテーション、大学祭でのファッションショーも懐かしい。学内に泊りこみが許された時代もあった。ほぼ徹夜に近い状態で衣裳作り、舞台作り、後年は作品展示は学内で、卒業制作ファッションショーは学外の舞台での発表会となり、二年間の苦労が多くの作品に結実した服飾デザイン専攻の一大イベントだった。あの時の達成感は強心に残っているだろう。謝恩会(卒業記念パーティー)も見違えるばかりにバッチリお化粧をして、着飾って、華やかで楽しいパーティーだった。

唯一不幸な出来事に遭遇したことがある。

平成七年の阪神淡路大震災である。幸い学生も教職員にも人的被害が無かったのが不幸中の幸いであった。

まだまだ書きたいことは一ぱいあるが紙面の都合でペンを置く。

現在「夙川学院」の名称は消え、「こども学科」(児童教育学科)のみが残り、家政学科も美術科も英文科も無くなった。そして「こしき岩会」も解散とは何とも淋しい限りである。だが楽しかった思い出は消えない!!

卒業生の皆さん、教職員の皆さん、充実した幸せな人生を送らせて頂いたことに感謝。

有難うございました!!

甌岩キャンパス懐かしの通学路



バス停名はやっぱり変更されています。



県道沿いのこの道は交通量が多かった。喫茶店「館」は今も健在。



駅前の階段！結構きつかったけど頑張って歩きました。



1980年代に建設された商業施設と住宅の入った「夙川グリーンタウン」夙川駅前は大変大きく変化しました。



阪急夙川駅



阪急甲陽園駅

甲陽園駅



空地だった通学路には現在、スーパーマーケット「阪急オアシス」ができています。

苦楽園口駅



阪急苦楽園口駅



夙川駅構内の甲陽線前にはスーパーマーケット「成城石井」ができています。

夙川駅からのタクシーの相乗り!! 知らない学生同士で通学していました。

ポートアイランドキャンパス



2016年正門はリニューアルされました。



児童教育学科実習室のため4号館は建設されました。

長田キャンパス



現在の神戸教育短期大学

卒業生メッセージ

最後の総会で予想以上にたくさんの方の会員の方に参加していただいたので、広い世代の会員の方にメッセージを頂きたく役員で出席者の中から無作為に選ぶ原稿の依頼をしました。

お受け頂いた会員の方にお礼申し上げます。

夙川学院短期大学と共に過ごした日々思い出

昭和42年家政卒業 藤岡利子

昭和40年4月、夙川学院短期大学家政科食物に入学。入学生102名、食物2クラス、被服1クラスの規模ではありますが、校舎は見晴らしのよい高台に建ち学びの場としては申し分のない環境でした。私は選択科目をすべて履修したため毎日登校することになり、高校生活と変わらない1年でした。翌年4月に家政科と保育科の入学生によって、今まで深閑としていたが学内が一気に活気づき、学生達のざわめく光景に圧倒された事を思い出しました。

新入生を迎えやると短大生としての実感の持てた学生生活も瞬く間に終わりを迎え、95名の卒業。卒業後、1年間の食物科研究生課程修了。昭和44年4月から調理実習の助手として勤務することになりました。調理実習では、学生時代の徹底した鍋磨きを引き継ぎ、調理後の片付けは授業の一貫として徹底して行なわれ、助手さんに受け継がれました。そのお陰で今も卒業生から「鍋、磨いています。台所を綺麗にすることが身に付きました。」などの嬉しい声を聞かせてもらえます。平成20年3月に退職、その後2年間の非常勤講師を経て、42年間の教員生活を無事に勤め終えることが出来ましたことに感謝しております。現在は年金生活を

送りながら、長年学んできた心の勉強と地域高齢者を対象としたボランティア活動に励んでいます。お蔭様で健康な日々を過ごさせて頂いています。

しかし、令和4年3月に、卒業と同時に発足した同窓会「こしき岩会」が活動の幕を下ろすことが決定しました。本当に悲しくて残念な事です。しかし時の流れとして受けとめることにしましたが、悔しさは拭いきれません。その中で、有り難かったことは、令和4年3月27日にコロナ禍で開催された最後の総会・懇親となった『第25回こしき岩会総会並び懇親会』で、お世話になった先生方や懐かしい卒業生の皆様と共に、ヒルトン大阪の華やかな雰囲気の中で楽しいひとときを過ごさせて頂けたこと更に、一人の感染者も出さずことなく無事に終える事が出来たことです。

夙川学院短期大学との関わりは、短大入学から同窓会活動を終える57年間の長きに至りますが、その間に夙川学院短期大学の「栄枯盛衰」の姿を目の当たりにした私にとって、今は夙川学院短期大学という名称の短期大学は存在しませんが、私の心の中では消えることなく存在し続けていると思います。そして、4月桜の季節の夙川堤は春爛漫、美しい桜並木を散策した思い出がよみがえって参りました。これからも桜の季節が巡ってくる度に夙川学院短期大学の日々を思い出せば幸せです。

今、私は夙川学院短期大学の卒業生で本当によかったと感謝しております。

一期生の思い出

昭和42年家政卒業 水田喜代子(旧姓:宮垣)

昭和四十年四月に入学しました。家政科は食物専攻二クラスと被服専攻一クラスの少人数でスタートしました。私達は戦後のベビーブームの年に生まれ、高校までマンモス学級で育ちました。短大で初めて、ゆったりした競争やいじめのない明るくのびのびとし

た楽しい学生生活を過ごす事ができました。

国文学の先生と京都のお寺を見学したり、青森県の十和田湖や北海道での十日間の修学旅行は、ほとんどの学生の参加による、とてもデラックスな旅行でした。飛行機に乗る初体験もしました。短大の学生食堂はとてもおしゃれで都会的ですが、くろりツチになった気分をさせてくれる場所でした。洋皿での洋食はとても美味しいので利用するのを楽しみにしてました。スリーピースの制服で通学して、阪急電車の中で宝塚歌劇の音楽学校の学生と間違われたこともありました。教育実習では、とても緊張しました。堂々と授業を教える友には、すごく驚きました。私は授業で針を持つと苦手意識が出て、胸が苦しくなった様な気分になり、作品作りは大変でしたが母とか友人がいつも手伝ってくれて提出してました。子育ての時期に手作りの物を作ったりしたので、今では針仕事はとても楽しいです。体育(務台先生)の先生が体育の講義と実技を真面目に受講したので木箱に入った金メダルをくださいました。今でも大事に保管しています。クラブ活動では二年生からコーラス部に入部しました。卒業後はボランティアや仕事でクラブ活動の経験が役立ちました。今でも合唱が続いています。私の趣味となりました。就職は学校推薦で保険会社に採用されました。とてもいい職場でした。短大に入って一番良かったのは今でもずっと交流している友達ができた事だと思っています。今年75歳になりました。夙川学院短期大学卒業生として誇れる人であるよう努力したいと思います。



「高校、短大の思い出」

昭和47年美術卒業 国武悦子

夙川学院は増谷かめ洋裁女学校として明治時代、御影町でスタート、名称を変更し、長い歴史と共に数多くの卒業生が巣立って行ったことでしょう。又、創立一〇〇周年の記念に赤い手鏡を全校生に配られたと聞きました。私は昭和四十二年美術科の一期生として、入学しました。朝の礼拝、初めて歌う賛美歌、電車通学、春、秋のバスで遠足、毎日が新鮮で楽しかった。文化祭の作品の提出、ギリギリセーフ、又、プールの授業中、ビート板でふざけて、たまたま担任の先生が見学に来られて「プールは遊びじゃない」と叱られたり、学校帰りに西北でお好み焼きを食べたり、懐かしいです。同じクラスから八名が短大に進みました。他府県から、たくさんの方が入学して来られ積極的に声をかけ色々な話題で盛り上がり友達もすぐできました。グレーの制服があるのに、殆ど着ず、私服で通学していました。こしき岩への道のり、坂道結構きつかったけど、若さで頑張れたと思います。でも授業に遅れそうな時は夙川駅から、タクシーに相乗りしたり：始めて体育の授業でゴルフ、ボールが飛ばず、土が飛んだのを、覚えています。自然に恵まれ、緑の大地こしき岩、あの環境の中、やりたいこと技術を身につけられたことは財産だと思っています。卒業して事務職につきましたが、半年で退職、テキスタイルデザインの仕事につきました。入社一、二年は見習い同然でお給料は少なかつたけれど、あこがれの職種につけて夙川で得た技術を生かして良かったと思っています。今回、五十年ぶりの懇親会に参加させて頂き、感無量です。ただクラスメイトが一人も参加していなかったのが残念です。役員の皆様、長い間、本当に、御苦労様でした。感謝申し上げます。神戸教育短期大学の発展を心よりお祈り致します。

短大への想い

昭和48年児童卒業 井土雅美

短大を卒業して今年で五十二年。歳のせいでしょうか。最近よく夙川短大のことを思い出します。阪急神戸線に揺られながら、電車の窓に目を向けると甲山が目に入り、その左の小高い丘の腹に真っ白な建物が浮き上がって見えるのが、我が夙川学院短期大学でした。今はその白い姿はありませんが…。

そんな夙短に入学して二年。その後二十五年間、事務職員としてお世話になりました。今では懐かしさでいっぱいです。

入学当初は殆ど短大の周りに何もなかった景色の中に月日が経つにつれ住宅が増え、人が増え、それでも失われる事のない自然豊かな甕岩の地で、勤められたことはとても良い思い出です。

春はサクラ、ヤマブキ、ツツジなど次から次へと咲くいろいろな花々の変化。夏は青空と緑のコントラストのすばらしさ。秋は赤や黄色などの美しい色をつけた山々。冬は冬至祭・光のメタファー展でキャンパス内の照明が落とされ、校内は幻想的な雰囲気になりました。思えば四季折々の違った表情でも目も心も楽しませてくれました。

そんな自然豊かで学生たちの笑い声も絶えなかった短大も色々な事があり、今では甕岩の地を離れ、学科も一学科しか残っていませんが、これも時代の流れで仕方がないのかもしれませんが、新しい地で新しい名前前で頑張っている短大ですが、同窓会解散によって夙川学院短期大学の名前が無くなってしまった事は、本当に残念です。

同窓会からの「こしき岩会だより」が届くと日頃忘れかけていた友人やお世話になった先生方はお元気にしていらっしゃるのか、どうされているのかと思いつ

し懐かしんでいました。

いつか、友人と一緒に夙川・甲陽園・甕岩と当時を思い出しながら、歩き巡ってみたいと思います。

夙川学院短期大学 — 私の思い出 —

昭和50年英文卒業 高見美智子

私は夙川学院短期大学生として2年間を過ごし、1975年から母校に33年間勤めました。

就職した頃から一日一日を過ごす事に懸命で、余裕もなく仕事に専念していました。

学生数も1976年頃から1学年1,000名余りの在生者がいて、それに伴い専任教職員、非常勤講師の数も増えて、学舎も1号館、2号館、3号館に加え、次々と増築され、活気ある短期大学でした。

栄養士実習棟から見渡す西宮から神戸の眺望も綺麗で、高台ならではの景観でした。

正門からのスロープには大きな桜の木が植えられていて、春は桜の花が咲き入学式を華やかにしてくれました。夏は新緑、秋は紅葉、冬は雪がちらつくこともあり、四季折々の自然豊かな環境にありました。とても良い環境だったと懐かしく思い出します。

秋には同窓会活動の一つとして、大学祭でバザーを開いて、学友会の活動の一助になればと毎年継続をしていました。学生の笑顔や明るい声が飛び交い、賑やかな楽しいキャンパスでした。

入学試験の制度も多様化して、オープンキャンパスでは教職員はもとより在学生の協力も得て、沢山の受験生を迎えられたことも発展の一つで、活力となっていたと思います。

18歳人口の減少によりいずれの大学も学生数が減り、学校法人夙川学院全体(夙川学院短期大学付属幼稚園、中学・高校、短期大学)としての改革も進められていた頃に私は退職をしました。夙川学院短期大学

の学舎が取り壊されていると知り合いかから聞くと、とても切なく、悲しく、もう帰る学舎が無いのだと思ひ、活気のあつた職場が愛おしく感じられました。

場所も名称も変わつたけれども、夙川学院短期大学が消滅していないこと、こしき岩会が活動していることが、私の気持ちの支えでしたが、3月27日、ヒルトン大阪でこしき岩会の解散を決定したことで、私自身の夙川学院短期大学に終止符を打つた瞬間でもありました。

しかし、退職して、こしき岩会を解散して、今までを思い返すと、夙川学院短期大学に係わらせてもらえて、とても貴重な経験をさせてもらえたことに、関係の方々感謝しています。

ありがとうございます。

「ほんの二年間」

昭和55年英文卒業 江口 芳美

短大生でいたのは、ほんの二年間。さらにとおいて
おい昔(笑)

この原稿のご依頼を頂いた時は、書けるかなと悩みました。ところが、筆を持つと次から次へとあの頃の私が浮かんでくるのです。

まずは、初めての電車通学です。自分の実力次第でどうにでもできる自転車通学とは違い、私にとつては毎日が電車に乗り遅れるかもしれない危機との戦い。さらに、ほぼ山登りの通学道も実力次第とはいきまませんでした。二回生からは夙川駅からのタクシー相乗り通学になっていました。

次は、初めての90分間の講義や授業。頑張つて耐えた講義あり、楽しくて充実した授業ありでした。ハードだった情報処理の授業、今ではパソコンは生活の一部ですがあの頃の情報処理の授業は超最先端でした。タイプライターの授業では、ブラインド入力をマスターすることができました。パソコンの便利さとは違うタイプライターは一度キーを押せば修正は不可で最

初からやり直しです。文章終盤でのミスは、授業中でも「ギャー」と叫びそうでした。当時、この単位が社会人となった時にどれほど役立つかを知る由もありませんでした。

そして、部活を終え陽が落ちた頃、キラキラ夜景を見ながら苦楽園口駅まで歩いた事。ほぼ山登り通学の代償!?

さらに、「こしき岩会」の思い出、卒業後しばらくはお世話にならずにいました。ある年に地方に住む友人に誘われて懇親会に参加しました。懇親会は期待以上に楽しくて、短大在学中と一緒に過ごす事もなかった先輩方や後輩方との出会い。初めてお会いした方々に、卒業後の人生談を聞かせて頂いたりとなんとも不思議なものです。『ほんの二年間』でしたのに。

今、「こしき岩会」が解散に至った事はとても残念ですが、「こしき岩会」を運営頂いた役員の方々への最大の感謝をお伝え致します。『長い間、ありがとうございます。そして、いつかどこかで。』

「わが青春の夙川学院短期大学」

昭和56年美術卒業 好川 園恵

「臨時こしき岩会だより最終号」の発行お祝い申し上げます。「こしき岩会会則」を拝見しますと「この会則はS42年から施行」とあります。その歴史の幕引きに、S56絵画卒業生として寄稿の栄を賜り、最後の紙面に何を残すか悩みましたが、在学中の思い出と「こしき岩会」への思いを、拙いながら書かせていただく事にしました。

当時の夙川は、阪神淡路大震災前の風景でした。甲陽園駅からの長い坂道の途中には、ひと休み用なのか小さな木のベンチがありました。2年になってからのほとんどは絵画教室で過ごし、先輩方の油絵が飾られた廊下からは、晴れた日には神戸港がパノラマのよう

に眩しく広がっていました。帰りの坂からは百万ドルの夜景がきらめき一望できました。そしてよく友達と出かけました。彼女たちは粹で優しく、共学出身の私は女子大の楽しさを知る事になります。講義や実技では時間や期限を守れず先生を困らせていましたが、教育実習にも行き、私にとつての2年間は一番濃密で貴重な、人間性を育んでくれた期間でした。今私は大学で働いていますが、当時はあらゆる面で今より学生が豊かな時代だったと感じています。卒業後は「こしき岩会」一大イベントのバザーに提供するなどし、「だより」で学院の様子を懐かしんでいましたが、時代の流れが学院にも暗雲が迫り始め、美術学科が廃止、キャンパスが移転した時には、抛り所が無くなったような寂寥感で一杯でした。そしてついに「こしき岩会」解散となる総会・懇親会の案内が届きました。会は役員様方の熱意とご労力が窺える立派なもので、夙女のプライドと意気地を見せつけんばかりの会を成し遂げられ、これ以上の幕引きはないと思ひました。HP記載の文書送付数によると会員は約18,000人。長きにわたり「こしき岩会」を運営し会員を繋いできてくださった歴代関係者様に、紙面を拝借し御礼申し上げます。願わくば現短大のどこかにこの足跡が残りますよう。

最後に、池田啓子先生がご退職記念の会で仰つたお言葉が私の心の支えとなっています。「夙短絵画が無くなつても、あの時あの地で私たちが学び過ごしたという事実」は、永遠に生き続ける」と。皆様、心の中にある「こしき岩会」でまたお会いしましょう。ご健勝とご多幸を。感謝をこめて。



『夙川学院短期大学の思い出』

昭和56年家政卒業 吉井千史

43年前、桜咲き誇る夙川へ紺のブレザーを着て入学式に向いました。高校では校則に縛られていたので短大生になったらパーマをかけてメイクをして「憧れの女子大生になってやる」と意気揚々としていました。

時代はサーファーやトラッド、ファッション全盛期、服飾デザイン専攻の華やかさを思い描き登学しましたが現実にはそれほど甘くなく基礎縫や運針など地道な作業の毎日で服を作るこの大変さを思い知らされました。2回生になり、なんとなくですが物作りの楽しさが解り始めた頃に増谷記念館でファッションショーをおこなうことになりました。その夏の宿題は洋裁、和裁とびつくりするほどの課題の数々でした。夏休みがあけてからはショー用の作品製作、オープニングのレッスンとファッションショーに向けての毎日でした。

ファッションショー当日、オープニングは無事終了、スポーツウエアを着た1回生達がローラースケートを履いて光GENJIながらに登場などショーは大成功しました。(山本先生曰く「光GENJIよりうちが先よ」とのことです。)

後日当時の理事長に真新な舞台をローラースケートで滑ったとお小言があったそうです。不満ばかり言って取り組んだファッションショーでしたが今となっては短大時代の一番の思い出となりました。

卒業後、母校に就職してからは学生時代に先生方から注意されたことと同じことを学生に偉そうに言っていました。ギャラリー展示やファッションショーを当時は不満に思っていた卒業生も良い思い出になっていることと思います。

数十年にわたりお世話になった教職員の方々や数多く関わった卒業生の皆さんとの出会いが私にとって大切な思い出となりました。

昭和59年家政卒業 谷本志由紀(旧姓・津田)

夙川学院短期大学といえば、阪急甲陽園駅からの階段と坂道。15分ほどで歩ける距離でしたが、暑い日も寒い日も毎日日本当によく歩いて通いましたよ。

私は家政学科服飾デザイン専攻で学びましたが、短大では珍しく本当に多くの作品を作りました。特に和裁の授業での浴衣・名古屋帯・袷の着物や羽織作成に思います。2年間よくあそびまわってきたものだから感心しています。様々な授業を通じて、そこには担当の先生はもちろん助手の先生のご指導もあつたからこそだと感じています。そのような経験をする中で、実習授業の助手のお仕事にあこがれ、卒業後夙川短大でお仕事をさせていただくこととなりました。

夙川からポートアイランドへの移転と同時に男女共学化、そして長田への移転を機に退職しましたが、その間たくさんのお学生と出会い、多くの喜びと優しさに触れることができました。また助けられたことも数多くあり、皆さんには深く感謝しています。

夙川短大に入学して40年余り、学校の名称は変わりましたが、これからも夙川学院短期大学への思いは私のなかでは変わることはないでしょう。

昭和62年児童卒業 宇和邦代

夙川学院短期大学を卒業してからは、30数年前のこととなりますので、既に記憶も遠のいてしまいました。西宮市甄岩町にあった短期大学には汗だくになりながら、トラックが行き交うあの狭い歩道を歩き坂を登り通ったことを思い出します。今では、場所も名称も変わってしまい、とても寂しく思いますが、神戸長田の地で神戸教育短期大学としての発展を願っています。

宝の青春時代

昭和60年家政卒業 下田世津子(旧姓・酒田)

大阪生まれの私にとって、異国情緒あふれる神戸の夙川学院短大に通学する事は、とても刺激的で大人になった気分。片道一時間半の通学時間も全く苦にならず、むしろワクワクした毎日でした。服に興味があり、服飾デザインを専攻しました。世界でひとつだけの私の服。自らデザインしたものを型紙でおこし、布を縫製した後着れるなんて感動でした。ただ短大の二年間は、課題との格闘で、提出前は母にも手伝わってもらい「ごめんさい。笑」よく夜なべしたものです。こんな私に根気よくご指導下さり、なんとか卒業できるまでに育てて下さった、山本先生、橘先生、松村先生、助手の先生方のお陰と感謝しかありません。本当にありがとうございます。又、他府県からの友人と出会う、大きく友情が広がり、充実した二年間を過ごさせて頂きました。

卒業してからは、卒業作品ファッションショーの案内を頂き、喜んで参加。懐かしい先生方にお会いできるのが嬉しく、又、後輩の皆さんの作品と演出に感動し、改めて、夙短に行って良かったと誇りに思いました。

先日の「こしき岩会、懇親会」を立派な会場で、私達卒業生に温かく、心をもって開催して下さい、本当にありがとうございます。懐かしい先生方や、旧友との再会は、心の宝の一日となりました。

今まで、長年、会を支え守り運営して下さいた役員の皆様の陰のご苦勞に感謝しかありません。本当にお世話になりました。

会は最後となり、とても寂しく残念な気持ちでいっぱいですが、しかし夙短でお会いできた、先生方、友人とはこれからも縁が続きますよう願ってやみません。

夙川学院短大、万歳!!

宝の青春時代をありがとうございました。

第二十五回「しぎ岩会に参加して」

平成元年英文卒業 山内利佳(旧姓・島津)

早いもので、夙川学院短期大学を卒業してから三十三年以上の年月が経ちました。子の通う学校が近いことから、行事の見学の折りに夙川学院短期大学が壊されていくのを、なんとも悲しい思いで見えておりました。

最後の同窓会のご案内を頂いて、今まで参加した事は無かったのですが今回を逃すと後がないと思い、初めて参加させていただくことに致しました。

時節柄でしょうが先生方のご欠席が多く、ゼミでお世話になった原田先生にはお目にかかれませんでした。が、懐かしくもおかわりの無い菊川先生やポナー先生の元気なお姿を拝見でき、またお話もさせていただいて、感無量でした。美味しい食事にお酒、お土産までいただいていたので、卒業生の方々と楽しい時を過ごすことができましたので、参加させていただいて本当に良かったと思っております。

母校である学び舎が無くなってしまったのは非常に残念ですが、胸の中に懐かしい思い出は生き続けてゆくことでしょうか。場所と名称は変わりましたが神戸教育短期大学として益々の発展を信じ、期待しております。

末筆ではございますが、今まで長きに渡り運営をしてくださり、この素晴らしい会を開催して下さったしぎ岩会の皆様方に、ここから感謝を申し上げます。どうもありがとうございました。

「しぎ岩会解散」に寄せて

平成3年美術卒業 二見ちづる

入学式は桜が満開の時にあり、式に向かう西宮北口からの電車の中から見える満開の桜が美しく、短大生活のスタートを祝福してくれているようですごく嬉しかったです。その時の思い出があるので桜の季節に

ると夙川の桜を見たくなり卒業後何度か桜を見に夙川を訪れています。

私は美術科絵画コースの学生で短大では主に油絵を描いていたので絵具が付いてドロドロのスマックとジャージのズボン姿で校内中をウロウロしていることが多く、売店では「すごいな」と言われ、はたまた作品の材料にするため校内中の空き缶拾いをして：すれ違う英語英文学科等のいかにも短大生！的な学生とは「違うよな」と感じておりました。笑

40歳を過ぎた頃から、今は仕事をしながら現代美術の作品を大阪や尼崎のギャラリーの合同展に月1、2回位で出品しています。現代美術なので抽象的に表現することが多くなりますが、合同展のテーマが「淡い」で、ボール紙にクーピーで白いこを描いていた時、(今はこんな感じですが)笑)クーピーですが、描きながら短大時代がむしゃらに油絵を描いていた頃のような気持ちになり「懐かしいな」と思いながら描いていました。

しぎ岩会が解散するという事で、あまり同窓会に参加したくない人ですが、もう夙短のことで集まる機会もないだろうと思いつつ最後の総会・懇親会に参加してみました。参加していた平成3年卒は4人だけで美術科は私1人でしたが、卒業以来お会いしなかった恩師の池田先生にお会いできお話しとスマホにあった直近の作品を観て頂きとてもよかったです。先生が個展をされているという事で帰りに中津のギャラリーに寄って帰りました。思いつつ参加してよかったです。ありがとうございました。

「バレー部藤島先生との出会い」

平成5年家政卒業 難波恵美子(旧姓・本田)

1991年(平成3年)4月、家政学科食物栄養専攻栄養士コースに入学。

入学時、不安いっぱい友達作りの目的で同好会の

バレー部に入部しました。ところが入部すると、顧問は1部リーグ天理大学バレー部顧問でもある藤島先生。週4日の練習にリーグ戦参加、日曜日には試合。同好会ではなくてクラブに変更になっていました。周りの学生はおしゃれな服装にヒール、化粧。私たちバレー部はTシャツジーパンにスニーカー。楽しく笑いながらゆるくを想像していた私は戸惑いしかありませんでした。

日々の練習は、常に自分たちで考えた行動が求められる練習。高校までの部活動では考えなしにただ指示された事をこなしていたので、すぐには先生の求めている行動ができず、何度泣いたか分かりません。悩んでいる姿も藤島先生は温かく見守って下さっていました。

この頑張りや大学に伝えて下さり、学長室に呼んで頂き学長自らほめて頂いた事ともうれしかったです。生徒の頑張りやを評価して下さる素晴らしい大学だったと思います。

就職活動はバブル崩壊で厳しく、卒業後の3月に決まりました。その間ずっと励まし支えて下さった就職部の井上さん。入社30年を迎えます。定年退職まで頑張りたいたいと思っています。

卒業後、社会人になり年を重ねる度に、一生懸命取り組んだ、がんばった、そのような「場」を与えて下さり、いろんなことを学ばせてくれた藤島先生には感謝しかありません。

30年経った今でも共に頑張った同期、先輩、藤島先生とは固い絆で結ばれています。夙川学院短期大学で過ごした日々は一生の宝物です。

最後に夙川学院短期大学の名前が無くなってもしぎ岩会を存続していただいた役員の方々、本当にありがとうございました。

夙川学院短期大学の思い出

平成7年児童卒業 安田直子

入学式の日、夙川の桜がきれいだったことを今でも覚えています。

友達のいない状況で緊張しながらも新しい環境にドキドキワクワクしながら始まった学生生活。

児童教育学科幼児教育コースの授業はとても楽しかったです。

がんばって作ったスケッチブック(モダンテクニック)や指人形はいまでも持っています。……いえ…綺麗事ばかり書いてもいけませんね!

楽しかったことばかりではありませんでした……体育にどれだけ苦労したことか(笑)!

逆上がり・竹馬・二重跳び・側転等々運動の苦手な私にとって地獄のような時間でした。

私の心を持った先生の優しさで、補習を受けなんとか単位を取ることができましたが、今でも学生時代のネタとして語らせていただいています。

そして卒業の年に忘れることのできない出来事、阪神大震災が起こりました。

突然終わった学生生活。

困難を乗り越え日々復興に向かって懸命な努力がなされている中、3月16日、卒業式が行われました。

こんな大変な時に!という意見もあったかもしれませんが、夙川学院短期大学を卒業したという区切りとして、卒業式が行われたことは素直にうれしかったです。

今回、久しぶりに卒業アルバムを広げました。

若いなあ(笑)!

懐かしい!

2年間の学生生活の中で、楽しかったこと、嬉しかったこと、辛かったこと、悲しかったこと、色んなことがありましたが、私にとってすべてが大切な思い出です。

夙川学院短期大学の名がなくなっても、こしき岩会がなくなっても、忘れることはありません。

夙川学院短期大学で出会えた方々に感謝です。本当にありがとうございました。

「ありがとう」「感謝」夙短

平成14年家政卒業 山内美智代

私が夙短へ入学したのは、平成12年、37歳の春でした。社会人学生として受験し、確か面接では「勉強がしたい!」と話したような。

めでたく合格通知を受け取り、主婦兼学生生活がスタート。生活科学専攻でしたので、衣・食・住全般にどの教科も私にとっては、即実践出来ることばかりで、楽しい授業でした。しかし、スポーツ・コンピューター(パソコンの走り?)の授業は冷や汗ものでした。コンピューターの課題の円グラフは難題でしたが、年の離れたクラスメートがそっとキーボードをタッチして助けてくれました。無事に卒業できたのは、そんなクラスメートたちのおかげです。

今、私はコープこうべ家庭料理研究会に所属をして、食の活動に取り組んでいます。活動を通して、料理教室の講師やレシピ作成、ラジオ出演などを行っています。その根幹には、夙短で勉強した2年間があります。調理実習・食品学など教わった藤岡利子先生には、たいへんお世話になりました。夙短の先輩でもあることから、つつい頼っていた面もあります。今回の総会にも先生は、こしき岩会役員として携わっていらっしゃいました。久しぶりにお会いでき、永年の感謝の気持ちを伝えられたことうれしく思いました。

懇親会での私のテーブルは、学科も違い、年齢も違う7名でした。しかし、みんな和気あいあいに「通学路はたいへんな登りだったね」「あれ? 駅からのシャトルバスなかったのですか?」「教室移動の階段数ハンパなかったね。おかげで当時は太る心配なかった」とマスク越しながら、話は尽きませんでした。同窓会こしき岩会は解散しましたが、同窓生ひとりひとりの

心の中には、夙短は存(あ)り続けると確信した1日でした。

このような機会を設けて下さったこしき岩会役員の皆様には、お礼の言葉をいくつ並べても足りません。ご尽力に感謝の気持ちでいっぱいでございます。本当にありがとうございました。



役員メッセージ

会長（昭和46年家政卒業） 松伏 純子

先日の第25回総会、懇親会には、沢山の卒業生が参加して頂きありがとうございました。教職員のお方も、お目にかかれてとても嬉しかったです。長い間続けてきた、こしき岩会の解散に寂しさが募りますが、皆様が、賛成していただけた事に感謝しかありません。この臨時こしき岩会だより最終号が、本当の最後の大事なとなりました。大切に見てくださいね。

夙川学院短期大学を振り返って

副会長（昭和57年家政卒業） 和田 園子

私の夙川時代は三つの時代に分けられます。一つ目は学生時代。

家政学科服飾デザイン専攻に入学し2年間作品製作に追われた日々でした。

当時、大荷物を提げて登校しているのは、服飾か美術学科かと言われたのを思い出します。神戸育ちで坂道に強い私でも甲陽園からの階段、県道沿いを登っていくのは大変でしたが、高台からの景色の素晴らしさは今でもはっきり記憶に留めています。

授業は個性的な先生方に「衣服、ファッション、デザイン」を多方向から学ばせて頂いた事は今現在も役立っています。

二つ目は教職員として30年間勤務した時代。

恩師、山本昌子先生よりお話を頂き、故吉村亞矢子先生の研究室に入り25年間家政学科の衣料関連の様々な授業の助手として学生指導をさせて頂きまし

た。素晴らしい先生方や元同僚、卒業生の方々と出会いがあったことは大変感謝しています。

その後、入試広報課、総務課へ異動、学科とは違った仕事を覚え未知の自分を発見できた五年間でした。

三つ目は退職後に本格的に同窓会活動をさせて頂いた時代。

勤務していた頃、何度か役員を経験しましたが、名前だけのような存在でありご協力は出来ませんでした。こしき岩会拠点は西宮市甕岩から神園町へ、その後神戸市ポートアイランドから現在の長田区へと三度の移転をした為、夙川学院短期大学の行く末を案じ複雑な気持ちを抱えていました。

当初、世代を超えた役員の方々とはどこかごちなさを感じていましたが、移転の都度、寧ろ気持ちを分かちあえ団結力が深まっていった事は喜ばしいことでした。

この度、こしき岩会の解散決議を経た今、ほっとした思いと、無くなる寂しさは同じ位の思いです。同窓会こしき岩会の組織が無くなった後も「夙川学院短期大学」で繋がった皆様とのご縁を大切にしていきたいと思えます。

副会長（昭和58年家政卒業） 秋葉 桂吟

私は家政学科食物栄養専攻卒業後、先生の紹介で調理室の職員として働くことになりました。

給食管理、臨床栄養学、食品加工学などの実習を通して多くの学生と関わり、調理実習関係の先生方と楽しく仕事をさせて頂いたことも日常生活に欠かせない栄養学や調理学などの知識を得ることができました。

その後、広報課へ異動した頃から学院の経営が悪化し、それを身近に感じながらの学生募集はとても大変な仕事でしたが、高校訪問や広報活動を行うことで学外を知ることができ、充実した日々を送ることができ

ました。

こしき岩会では毎月1度役員会で意見を交わり、年代の違う卒業生と同窓会活動させて頂いていただきましたが、その時間はとても貴重に感じています。

今後も「夙川」で頂いたご縁に感謝し、その気持ちを大切にしていきたく思っております。

書記（昭和53年児童卒業） 井上 千晶

大好きだったこしき岩キャンパス。

そこで素晴らしい先生、一生の友に出会いました。卒業後には後輩の指導をさせて頂いていただく機会に恵まれ、同窓会役員もさせて頂きました。夙川学院短期大学と共に人生を歩んできたと言ったら大げさでしょうか。

短期大学の名前が変わり同窓会は解散しましたが、短期大学での思い出は大切な宝物としてずっと心の中にあります。これからの人生、夙川学院短期大学卒業生として恥じないように生きていかなければと思っています。

辛い決断

書記（昭和51年英文卒業） 大前 都貴子

昭和五十一年に短大卒業後、短大事務局に勤務しながら同窓会活動に携わってきた四十数年間。

人生の大半を夙川学院と過ごし、育ててもらった場所でもあります。

学院の上り坂から下り坂を経て耐え抜いてきた時代の変異を目の当たりにしてきたとも言えます。

学んだ学科が募集停止、短大が移転、短大名が改称と次々と姿を変えていけども、時代の流れで仕方がないと変化を受容してきました。

しかし、まさか短大と共に五十六年間活動してきた同窓会までもが解散に至ると思ってもいけませんでした。役員会で何度も検討し、会員の意向を尋ねるなどをしながら時間を費やして出した結論ですが、役員の一人士として取り返しのつかない事をしているのではなしかと悩ましい気持ちでした。

解散は苦渋の決断ですが、時代に即した同窓会活動の方法を考えることで継続することができるとはなしか、いや、色々な条件や状況が揃わないなら、遅かれ早かれいずれは幕を閉じる事になる。それならば、夙川学院名で卒業をする最後の学生を送り出した今だからこそ節目になると自分自身を納得させながらも気持ち揺れ動く苦悩の連続でした。

第二十五回の総会において解散が承認されました。同窓会という組織は消えても、消えないもの、それはやはり同窓生間の結びつき・繋がり・関わり・強みだと思えます。

短大に勤務していたことで、懇親会場では後輩の同窓生からも声を掛けられ、思い出を共有出来る関係、また先輩の同窓生にも気軽に話しかけることが出来る繋がり、すぐに親近感が湧く関係は同窓生だからこそ出来る強みだと改めて痛感しました。

このような大事な関係を継続したい、だから「こしき岩会」は私たちの心の中に「移転したんだ」と思うことにしました。

最後の仕事は「だより」の投稿

会計(昭和49年家政卒業) 佐々木 眞由美

光陰矢の如し、私がこしき岩会の役員になって早や30年の年月が経ちました。されど、同窓会がこの様な幕引きをする事を当時の誰が想像したでしょうか。私自身、同窓会とは当然順次受け継がれて存続される半永久的なものとの思いで役員を続けておりました。長期に渡り、同窓会を運営してきた役員の一人士として、

今、胸を痛める反面、安堵の様なものも感じております。

私がこしき岩会に携わったのは、下の娘がまだ10歳で子育て真最中の働く主婦でした。当時の勤務先の上司の縁で同窓会の役員を引き受ける事となりました。丁度、バブル景気が崩壊した直後でしたが、今思えば中々の好景気時代であったと思います。夙川学院短期大学も西宮市甄岩町の地で多くの学科や専攻科等を備え、学生数も多く、その頃は母校が一番繁栄した良き時代であったかと懐かしく思います。同窓会も学祭には有名人を招いて講演会を催し、名物のバザーも毎年近隣の多くの方々が楽しみにされていて、盛大に開催していました。

その後、同窓会は2007年の神戸夙川学院大学開学時に祝儀として高額な寄付をし、学校経営が悪化した後の2013年のポートアイランドキャンパス移転時と、移転後の設備投資の為に寄付をして、常に学校側に寄り添った同窓会の運営をしてきたと確信しております。

しかし、同窓会資産は寄付金での出費が高み、学廃止等の影響で会費収入が激減し、目減りする一方でした。学校経営がより悪化した2019年には同窓生の意に反し、「神戸教育短期大学」と名称変更されてポートアイランドキャンパスを売却して現在の長田キャンパスに移転しました。翌年、2020年春のコロナ禍に学長からオンライン授業の為に在学生へのパソコン配布支援の申し入れがメールでありました。度重なる寄付とそれが何一つとして形に残っていない現状に役員達は不信感を募らし躊躇しました。そんな矢先、学長は同窓会費の徴収手段(学校が2回生後期授業料徴収時に代理徴収をしている)を学生達は認識していないとして、時代に沿わないと今後の代理徴収の拒否をメールにより警告してきました。学校に代理徴収の手段を拒否されると会費収入が絶えて同窓会の存続が困難になる故に、在学生の会費は徴収せず、徴収しない事とその額を寄付する事と決定し、学長に申し入れましたが、寄付行為として認めて貰えませんで

た。その後も学長との対面での討議や役員会を1年半ほど行い何度も討議を重ねた結果、学長の言い分にも一理あり、時代に沿った同窓会運営に改善が必要だと認識した次第です。しかし、平均年齢が高齢化している役員達は、将来の運営に不安を抱き、後を託す若い世代の協力を得られない以上、同窓会の閉会もやむを得ない手段ではないかと結論に至りました。それ以来、総会を開催して会員の了承も得、現在は閉会の為の活動をしております。あいにく、私は昨秋より病氣療養中で、12人の役員が資産処理や最後の「こしき岩会だより」の発刊に向けて活動しています。

闘病中ではありますが、使命感の様なものを感じ、「こしき岩会だより」の投稿をさせて頂きました。こう言う結果に至った事を深く胸に留め置き、皆様に少しでもご理解頂ければと思います。

会計(昭和52年児童卒業) 藤原 恵意子

こしき岩会の「口ゴ」の青色、在りし日の夙川キャンパスから見た空の色、神戸を見下ろす素晴らしい眺め、越木若神社への散策、甲山へ向う遊歩道、自然に恵まれた環境の中で級友と過ごした楽しい日々を思い出します。日本画家の青山政吉先生、山口牧生先生、桐隆一先生、動く玩具の実野利久先生、実野恒久先生、声楽音楽家の先生、苦手な科目ダンス体育の先生他にも各学科に著名な先生が沢山おられご教授、ご指導を受けられたことに感謝いたします。

夙凜祭、冬至祭など各学科の工夫を凝らしたイベントも楽しい思い出です。子育ても一段落しアルバイトをしていた時は、家政学科の学内給食が週2回の楽しみでした。同窓会活動にも参加するようになり、パン販売やジャンボタクシーの運行補助金、夙凜祭での模擬店バザーなど協力しながら短大に寄り添ってきました。

同窓会「こしき岩会」が解散するのは、とても寂しいですが同窓生一人一人の中にいつまでも楽しい思い

出として残っていただけだと嬉しく思います。ご理解、ご協力ありがとうございました。

常任委員(昭和43年児童卒業) **有近 富美子**

子供が付属幼稚園に通っていました事から「こしき岩会」との縁が、始まりました。振り返りますと、さまざまな出来事が、思い起こされますが、良い時間を共有させて頂きました。皆様と完走出来ました事を、幸せに思います。

常任委員(昭和46年家政卒業) **香西 康江**

学校卒業後ご縁があつて同窓会の役員をさせて頂きました。学校の移転と共に動き今まで関わられて良かったです。

常任委員(昭和46年家政卒業) **戸田 博子**

こしき岩会の役員に就任して、34年余り、目まぐるしく色々な事が走馬灯の如く思い出されます。

私が就任した頃は、プレハブの倉庫に、必要物が納められていました。次にカビ臭い同窓会室をやっと頂いて、なんとか同窓会の運営が細々と出来る堤をなし、学校に請われるままに様々な寄付をし、やっと陽のあたる場所に同窓会室を頂いて、これからと、意気込んでいたのも束の間、甑岩の地から神園へ移りました。数年も経たぬ間にポートアイランドの地へ四大開校時の3千万円に続き修繕費用にと再び3千万円の寄付をしたにも拘らず、数年後には思いも選らない長田の地へ。しかも、慣れ親しんだ学校名まで、変わってしまいました。

あの、こしき岩にそびえた華やかな学舎が、小さく小さくなつてしまいました。それでも、老体に鞭打つて頑張つてまいりましたが、コロナ禍の嵐に学校側事情が重なり、ついに解散の事態に。それにしても、あまりにも色々あつた34年余り。共に過ごした仲間は、かけがえのない宝です。

楽しくもあり、悔しくもあり、懐かしくもありですが、仲間と過ごした色々な事柄に思いを馳せるのみです。皆様、ご協力ありがとうございました。

常任委員(昭和42年家政卒業) **藤岡 利子**

こしき岩会発足当初から今に至るまで、同窓会活動に関わったことは、私に取りまして、かけがえのない思い出となりました。

最後まで、現役員の皆様と、同窓会活動が出来たことに感謝致します。

有難うございました。
お疲れ様でした。

常任委員(昭和61年家政卒業) **村尾 恵美子**

2年間の学生時代、こんなに長く夙川学院短期大学とお付き合いが続くとは考えもありませんでした。地方から出てきて寮に住んでいた私は、寮での暮らしが楽しくて毎晩友達と夜遅くまで話していました。もちろん夜食付きで。他愛もない話でしたが尽きることはありませんでした。ついつい声が大きくなり向かいのマンションからお叱りの声飛び、寮監先生からお叱りの声飛び、楽しい毎日でした。

卒業後、ご縁があり短大に勤めると同時に同窓会役員となりました。短大を退職してからも役員として長く携わらせて頂きました。同窓会が無くなる事など考

えもしませんでした。これも時代の流れなのでしょう。解散は残念ですが、たくさん大切な友人や先生方と出会えた事に感謝しかありません。有難うございました。

夙川学院短期大学の思い出

常任委員(昭和62年児童卒業) **宮城 りゅう子**

37年前、甲陽園駅前階段を新緑の季節でありながら汗をかき登っていました。

食堂でBランチを食べ友人と談笑した後、初等教育コースにも関わらずピアノが苦手な空き時間があればピアノ館で練習をしていました。

当時の日常であつた場面は、今では眩くかけがえのない風景です。

10年程前からこしき岩会の役員になりました。

非常勤職員離職後、約25年ぶりの夙短は西宮市から神戸市ポートアイランドに移転しており、若干の違和感がありました。

現在は長田に移転し校名も神戸教育短期大学となり、元の夙短の面影は無くなりました。

短大側の同窓会費代理徴収拒否や、役員の高齢化がこしき岩会の解散に繋がりましたが、時期的にも解散の潮時であつたのかもしれない。

学生時代アドバイザーでもあつた故桐隆一先生は、前回の総会時のご挨拶で「夙川学院短期大学が神戸教育短期大学になることは、母校が無くなるのではなく、母校が2つになる。」と仰いました。

夙川学院短期大学からの校名変更は寂しかったです。しかしながら、この言葉で救われたように思われます。

そして、夙短時代の青春の思い出は校名と違い無くなってしまうことはないのです。

「母校への思い」

会計監査(昭和56年家政卒業) **富山久代**

30年間お世話になった夙川学院短大。母校の思いや恩師の教え、友との語らい。学生の授業補助。ありがとございました。同窓会で先輩方との出会いにも感謝。

夙川学院短期大学での思い出

会計監査(昭和57年児童卒業) **中井淳子**

幼稚園教諭を目指していた私はその資格が取得でき、尚且つ学費が比較的高くない短大を探した結果「夙川学院短期大学」を志望し、願書を友達と短大へ持参した時にあの坂道を知りました。晴れて入学式を迎えることができ、今は亡き母が着物姿で参列。見晴らしの良い学生食堂でコーヒーを飲んでいました。その景色の素晴らしさや夙川沿いの桜を私はそんなに意識していませんでした。授業はなかなか厳しくも先生方との色々な思い出があります。「自然」という授業では銀水橋の横から山道のような散策路を登ると言われ、まだ遊び気分の私はハイヒールやパンプスで通学しており、歩きづらいう上に授業の内容も理解してなかった気がします。真面目な学生でなかったかもしれませんが、クラス委員のような役はしていました。「体育」の授業である日、先生が怒ってしまった時は体育教官室に緊張しながら謝りに行きました。ピアノの授業は一番苦手でマーチを弾いてもリズムが悪く「それでは歩けないから私のピアノであなたが歩いてみなさい」と先生が弾いて下さり、レッスン室の中を歩き回った時はものすごく緊張しました。幼稚園教諭の道は険しいと感じていた毎日だったように思います。嬉しかった事は大学祭の時、現役阪神タイガース選手が来るということでもラッキーな気持ちになりました。やりたがりの私は謝恩会委員もやらせて頂きました。当時、創業されたばかりの神戸ポートピアホテル

で開催することになり、みんなオシャレをして素敵な時間を過ごせました。

卒業後はどうにか幼稚園に就職が決まり、頑張っていたかと思っていざ根性のない私はお恥ずかしい話、たった一ヶ月で辞めてしまいました。家で塞ぎ込んでいたある日、就職部から電話がありその幼稚園から再募集の求人依頼で辞めた事がわかったとのこと。短大に報告することなど頭になかったので本当に有難い連絡だったと感謝しています。思い返せば友達や先生方に支えられて過ごした二年間。改めて懐古する機会を頂きお礼を申し上げたいと思います。ありがとうございました。



こしき岩会 現・旧役員

編集後記

2022年3月27日(日)の総会でこしき岩会の解散が決定し、最後となるこの「こしき岩会だより」の発送を7月中旬頃目途に作成しておりましたが、コロナ禍の中、役員会開催の日程調整や業者とのやり取り等で予定がズレ込み、お届けが遅くなりましたことをお詫び申し上げます。

写真撮影のため、久しぶりに甲陽園駅から舘岩町の短大跡地まで歩いてみましたが、甲陽園駅から階段までの空き地や、県道までの住宅地が様変わりしていて驚きました。

このだよりを作成するにあたり、懇親会にご出席いただいた先生方、そして卒業生の皆さまより多くのメッセージをいただきました。

我々、会報委員も最後の会報に多くの方のご協力を得ることができましたことを深く感謝しております。

最後に

このだよりがお手元に届く頃には少しは暑さもおさまっていることと思います。皆さまの今後のご健勝とご活躍を祈ります。

■ 発行日…令和4年9月

■ 発行責任者…こしき岩会

会長

松伏純子

■ 印刷所…

小野高速印刷株式会社



夙川学院短期大学
同窓会「こしき岩会」